

生まれも育ちも札幌です。大学は、歴史風土が異なる本州に住んでみたいという、親泣かせの個人的事情により道外へ飛び出し、盛岡にて環境科学を学んだ後、再び北海道に戻ってまいりました。平成16年度に入社以降、海岸保全施設やダムをはじめとしたインフラ整備に伴う水生生物の環境調査・分析・研究を行っています。あまい水(河川源流域)からしょっぱい水(海域)までの、魚類や底生物を主な対象としています。

入社10年が経った頃です。今後の生き方について考えていた時、同じ業界の憧れの女性の方々が技術士として活躍されており、いつか自分もそのようになりたいと思い、資格取得を目指しました。口頭試験での敗退を経て資格を取得できた時は、大変うれしかったのですが、それ以上に、取得に至るまでに学んだ物事の捉え方や知識が、大きな財産となりました。特に業務に対しては、その業務に関わる工学的知見、社会的背景を踏まえて、多角的視点から取り組むことができるようになりました。そして何よりも、社内外の多くの先輩技術士からのご指導を受けたことが大きな糧となり、多くの人に支えられて今の自分があることを痛感しています。

事業実施にあたり保全対策を行う際、保全対象種の生息に重要な環境要素の特定や抽出が重要になってきます。私が大切にしていることは、ずばり、観察眼を鍛え続けること。対象種をじーっと観察し、各現場のあらゆる状況から、彼らが何を求めてその場にいるのか、また移動するのか考えを巡らせることで、「人となり」ならぬ「生物となり」を知ることです。そんなことの積み重ねが新たなアイデアの源になる気がします。今後も、牛の歩みながらも、少しずつ技術者として成長していけたらと思います。

## 飯村 幸代(いらいむら ゆきよ)

●建設部門(建設環境)

### 勤務先

公益社団法人北海道栽培漁業振興公社  
企画調査部



→次号は、野手啓行さん(建設部門)

私は高校まで札幌で過ごし、大学も北見と生粋の北海道育ちです。仕事も主に道内の鋼橋が相手であり、道内各地ともカーナビ無しで走れると自負しています。

しかし、最近思うことがあります。これはまさに“井の中の蛙”なのではと。かといって、可愛い子供と奥さんを家に置いて海外武者修行をする訳にも行かない。むしろ『自由に行っておいで〜』と言われるほうがもっと怖い。

そんな中、気づいたのは『本物の蛙には大海を知る術は無いが、人間には大海を望む方法がある』ということです。住んで肌身で感じることも大切ですが、人間は様々な人との『繋がり』から刺激的な考え方や情報を得ることができます。先日、大学時代の客員教授である大阪在住の恩師とお会いする機会がありました。恩師は金属溶射技術や計測技術などで海外でも活躍されていますが、その先生から伺う話はとても貴重で刺激的な事ばかりです。また、年に数度の学会への参加は、国内の最新研究を勉強できる非常に良い機会となっています。思い返せば、全国から仲間が集まる北見工業大学での学生生活は、様々な大海を知ることができたから、とても楽しく濃密な時間だったのかもしれない。

道内には私と同じく、様々な事情がありつつも生まれ育った土地を発展させたいと道内で職務に励む技術者も多いと思います。我々の使命である積雪寒冷地の社会基盤の発展と未来につなぐ維持管理技術の向上のためには、井蛙にならず、常に大海を望み様々な技術や知識を習得することが必要だと考えます。私も道産子の一員として、井の中も大海も知る技術者になる努力を、と思う最近です。

## 岩淵 直(いわぶち すなお)

●建設部門(鋼構造及びコンクリート)

### 勤務先

株式会社 構研エンジニアリング  
橋梁部



→次号は、伊勢谷智映さん(建設部門)